



第39回 全国育樹祭

手から手へ 豊かな緑で ぼくらの未来

10月11日(日)、「手から手へ 豊かな緑で ぼくらの未来」をテーマに、第39回全国育樹祭が岐阜県揖斐川町を会場に開催されました。

健全で活力ある森林を次の世代へ

全国育樹祭は、健全で活力ある森林を育て、次の世代に引き継ぐことの大切さを伝えるために、昭和52年から毎年秋に開催されている国民的な緑の祭典です。

全国植樹祭で天皇后両陛下がお手植えされた樹木を皇太子殿下がお手入れされるという育樹運動のシンボリック行事と、皇太子殿下によるおことばや各種表彰等の式典行事のほか、参加者による育樹活動等の行事が行われています。

全国育樹祭「発祥の地」でお手入れ初の間伐

お手入れ行事の会場は、昭和32年に昭和天皇、香淳皇后がお手植えになり、その後天皇后両陛下が皇太子同妃両殿下であった昭和51年に枝打ちの様子をご視察され、翌年からの全国育樹祭のきっかけとなった場所です。

皇太子殿下は、昭和天皇がお手植えになったスギに隣接するスギの間伐の一環として、鋸入れをされました。全国育樹祭でのお手入れとして間伐が行われたのは今回が初めてです。これにより、天皇家親子三代にわたり同一箇

所の森林づくりに関わられたこととなり、世代を超えて受け継がれる森林づくりを象徴する行事となりました。

世代を超えて受け継がれる森林づくり

揖斐川町谷汲緑地公園で開催された式典行事には、約5,000人が参加。皇太子殿下のおことばの後、森林の育成や林業の発展に貢献した個人・団体を対象とした緑化功労者表彰や、全国各地の緑の少年団へ森山裕農林水産大臣からみどりの贈呈が行われました。

その後、お手入れ行事でも示された、世代を超えて受け継がれる森林づくりを表現するメインテーマアトラクションや国土緑化推進機構の佐々木毅理事長による大会宣言等が行われ、参加者全員で拍子木を打ち鳴らして「木の音」を周囲の森に響かせ、式典は幕を閉じました。

次回、第40回全国育樹祭は「育樹の輪 ひろげる森と 木の文化」をテーマに平成28年秋に京都府で開催される予定です。



皇太子殿下のおことば

挨拶に先立ち、この度の「平成27年9月関東・東北豪雨」により亡くなられた方々に心から哀悼の意を表しますとともに、ご遺族と被災された方々にお見舞いを申し上げます。災害からの復旧が一日も早く進むことを願っております。

第39回全国育樹祭が全国各地から多くの参加者を迎え、ここ岐阜県の谷汲緑地公園において開催されることを喜ばしく思います。

岐阜県は、県土の8割が森林で占められており、この森林からもたらされる清流がくまなく巡る、美しい自然に恵まれた地であります。また、スギやヒノキの生産を始め、県内各地で林業活動が盛んに行われるとともに、地域特有の自然環境がよく残されておき、林業関係者を始め県民の皆さんのたゆみない努力の賜物であると思います。

58年前に昭和天皇、香淳皇后がお手植えになり、その後、天皇皇后両陛下が皇太子同妃両殿下時代にご視察になったスギの手入れとして、先ほど、私は、全国育樹祭では初めてとなる間伐のため、鋸入れを行いました。長い歳月の間に、力強く成長した姿に深い感慨を覚えながら、木々の成長を促し、災害にも強い森林を育てる上で、間伐が適切に行われることは、とても意義深いことと感じました。

森林は、山地での災害防止、林産物の供給、水源の涵養等、多面的な機能を果たすことで人々の暮らしを豊かにしてきました。また、温暖化防止や生物多様性の保全など、地球環境の保全に果たす役割も大いに注目され、期待されております。

このような森林の大切さを思うとき、緑を守り、育んできた技術や文化を次の世代に引き継いでいくことは、私たちに課せられた大きな役割であり、近年、企業やボランティア団体の皆さんの自主的な森林整備活動の取組が広がっていると聞き、大変うれしく思います。

本日表彰を受けられる方々を始め、日頃から各地域において国土の緑化に尽力されている全国の皆さんに敬意を表するとともに、その活動が、より多くの人々によって支えられ、更に発展していくことを期待します。

終わりに、この度の大会テーマである「手から手へ 豊かな緑で ぼくらの未来」にふさわしく、先代から受け継いだ森林を守り育て、次の世代へ引き継いでいく活動の輪が、ここ岐阜の地から世界へ、そして未来へと大きく広がっていくことを切に願い、私の挨拶といたします。



第39回全国育樹祭プロローグ「谷汲と夜叉ヶ池龍神舞」



森山農林水産大臣によるみどりの贈呈



主催者あいさつを行う山崎正昭参議院議長



メインテーマアトラクション「100年先への誓い」



枝打ち名人が丸太に登り、「未来の梢」を立てた